



冷戦体制 (資本主義の維持統合システム)

通貨・金融(需要)面 = IMF・ドル体制 ドル世界のインフレーション	生産・技術(供給)面 米IB・日新鋭重化 = アジアの「工場化」
~1960年代冷戦体制構築のドル散布・局地 (ベトナム等) 戦争	在来産業・生産のME = アジア化 '71年イン テル i4004
クリーピング・インフレ 1971年の金ドル交換停止 = 機能低下 → 破綻が 表面化	日本新鋭重化 ME 自動化・「合理化」海外進 出第1波
IMF・ドル体制の解体の開始 = 米経済力の相 対的低下開始	⇒ 東アジア NICs (外生循環 Ver. 1) 起動開 始 '71中国 (対外開放へ)
第1歩 (第1段階) 為替変動 → 国際浮動貨 幣資本 (プレトラ/ユーロ・ダラー)	日本・アジア NICs 対世界・米輸出 (= アジア の工場化開始)
70年代前半 投資収支の黒字で経常収支の赤 字を補填 以降不可	'79OECD の NICs 規定 (アジアの世界認識) '78中国 (改革・開放)
アメリカは体制構築維持に復興・再興を遂 げた OECD 諸国を利用	→ 米在来 (特に鉄鋼・自動車) 産業空洞化
(病理は先進国スタグフレーションとユー ロ・ダラーの対途上国投資)	日本 海外進出第2波 + ASEAN (外生循 環 Ver. 2)
1982年 米 経常収支の赤字	アジア化 = 中国化 (外生循環 Ver. 3) 92鄧 「南巡講和」
(病理は中南米デフォルト発生 ← 米多国籍 銀行プレトラ投機)	アジアの工場化 = 日本空洞化・基本機能不全 発症
1985年 米 純債務国に転落 (双了特に貿易 赤字対策)	アジア危機潜伏期間 92年欧 ERM, 94年暴危 機
プラザ合意 日本バブル = 平成不況の潜伏 期間 = 癌の発生	アアジアは戦場から (投機) 市場へ 日本貢納 国家化
IMF・ドル体制, 冷戦体制解体の第2歩 (第2段階) 為替円高	冷戦体制は2段のプロセスをへて解体し再編へ アメリカの1人生残り = 基軸通貨国特権 乱用: 金融世界横奪戦略 = システム構築中 (→ ×) (ポスト冷戦時代)
1989/91年 冷戦体制の解体・再編 (東欧革 命/ソ連邦崩壊)	
(1992~4年 亜中米資本自由化 = ミニバブル 危機)	
1995年 逆プラザ (97亜危機 → 世界)	